

北大タイ政府と連携協定



とを期待したい」と意欲。タイ農業・協同組合省のラートピロー・ゴワッタナ事務次官は「機械化が進めば高齢化する農家の負担が減る。若者の農家も増えてほしい」と北大との連携に期待した。

【バンコク堂本晴美】北海道大とタイの農業・協同組合省、地理情報・宇宙技術開発機構の3者は31日、IT技術やロボットを活用した「スマート農業」の技術や人材育成で協力する連携協定を結んだ。同日、名和豊喜北大学長らが出席し、バンコク近郊で署名式が行われた。北大がスマート農業の分野で外国政府と連携協定を結ぶのは初めて。

タイで農林水産業は人口の約4割に従事する主要産業だが、国内総生産に占める割合は1割程度。農家の平均年齢は約55歳と高齢化が進んでおり、効率化や生産性向上などが課題となっている。

協定は、北大が研究開発を進める無人で走る自動走行トラクターシステムに、タイ側が注目したことがきっかけ。北大は1月にタイ国内のキャッサバ畑などでこのトラクターの実演走行を行っており、日系企業とも連携してスマート農業の実用化に向けた技術支援や、人材育成の協力を行うことになった。

9月ごろにセミナーを開き、来年には除草ロボット



スマート農業に関する連携協定を結んだ北大の名和豊喜学長（左から2人目）とタイの関係者ら（堂本晴美撮影）

「スマート農業」や人材育成で協力